

Vol.19(2021) No.10(05/13)L03

コルチコステロイド治療は COVID-19 の院内死亡率への効果なし

[Corticosteroid treatment has no effect on hospital mortality in COVID-19 patients](#)

Albani F, Fusina F, Granato E, et al.

【Sci Rep. 2021 Jan 13;11(1):1015】-peer reviewed(査読済み)

(要旨)

COVID-19パンデミックが発生して以来、コルチコステロイドの使用はさまざまに議論されてきた。入手可能なエビデンスは不確実であり、また本件に関する知見は日々深まりつつある。

本コホート研究の目的は、COVID-19入院患者におけるコルチコステロイド治療と院内死亡率との関連について、潜在的交絡因子に関して調整した上で、評価することであった。

SARS-CoV-2のRT-PCR検査陽性の患者1,444人が当院に入院し、559人(39%)が入院中にコルチコステロイドを投与され、844人(61%)は投与されなかった。コルチコステロイドを投与された患者のコホートでは、171人(30.6%)が死亡した。コルチコステロイドを投与されなかった患者のコホートでは、183人(21.7%)が死亡した(未調整 $p < 0.001$ )。しかし、overlap weightを用いた傾向スコアで調整すると、コルチコステロイドの投与は院内死亡率に関連しなかった(調整後 $p = 0.25$ )。コルチコステロイド投与コホートの患者は、ICU入院リスクが低下した(調整後 $p < 0.001$ )。交絡因子による調整後では、コルチコステロイドによる治療はCOVID-19入院患者の死亡率に対する効果が示されなかった。コルチコステロイド治療の利点として考えられるのはICU入院リスクの低減で、これはCOVID-19パンデミック時のように、リソースが限られている時期にICUの医療逼迫体制を軽減するのに有用である。